

イエスはまなり



日本クリスチャン・アシュラム連盟

日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創設されたキリスト教の新しい祈禱運動である。

開心・静聴・充滿・献身・奉仕 189号

「キリストこそ教会のかなめ石。」

(エフェソ 2:20)

島 隆三



「(教会は)使徒や預言者という土台の上に建てられています。そのかなめ石はキリスト・イエスご自身です。」(エフェソ 2:20)

私にとって最初の会堂建設は中野の教会でした。小川の河川敷にあり、土地が軟弱だったので、土台造りが肝心です。鉄骨2階建ての会堂でしたが、4階の建物でも耐えられる頑健な基礎造りがなされました。その工事をつぶさに見て、感ずるところがありました。あれから時間を経て、現在、大田区の教会に遣わされ、最後の会堂増築(鉄骨3階建ての保育室と牧師館)と取り組んでいます。やはり堅牢な基礎づくりを目の当たりにしています。日本の建築では何と言っても土台造りが肝心ですが、エルサレムへ行ってみると、街全体が堅固な岩山に建てられており、石造りの建物を支えるのは「隅の親石」(要石)です。ここでは、土台は使徒や預言者であり、その要石がキリストであると言われています。この「キリストにおいて」(in Christ)建物全体は組み合わされて成長し、主にある聖なる神殿となります。

神殿は文字通り「神の住まい」であり、教会は神が住みたもうところ です。

私の中野の会堂建設でつまづいたのは、初めに教会員の要望を聞いて、それをできるだけ取り入れて会堂建設をしようとしたことです。その事自体は間違っていないでしょう。しかし、教会員の要望をどこまで取り入れることができるかは限度があります。あれもこれも無理に盛り込もうとすると、どこかに歪みが出てきます。そこで、この聖句を思い起こす必要があったのです。要石はキリストご自身なのです。教会員の要望も大事だが、その前にキリストご自身がどのような会堂を建てようとしておられるか、それこそが一番大事なことで、そのことをもっと皆で真剣に祈り求めねばならなかったのです。

今回もそうでした。先に予算を考え、この予算ならこの程度の建物が建つという建て方でスタートしましたが、それは間違いでした。その設計段階でつまづいたので、軌道修正するために多大な労力と時間をロスしてしまいました。教会の要石はキリストですから、会堂建設においてもあくまでも「主のみ心は何か」を第一にしなければなりません(ヤコブ 4:15)。もう一度この度の会堂建設において、そのことを学ばせていただきました。自分の伝道生涯も終りに近い今、もう一度このみ言葉を心に銘記させていただきました。

(日本基督教団東調布教会牧師)

霊 想



「共に喜べ」

フィリピの信徒への

手紙2章1・2節

東京聖書学校神学教師

西海 満希子

「ここであなた方に幾らかでもキリストによる励まし、愛の慰め、霊による交わり、それに、慈しみや憐れみの心があるなら、同じ思いとなり、同じ愛を抱き、ここを合わせ、思いを一つにしてわたしの喜びを満たしてください」(フィリピ2章1・2節)

今、日本のキリスト教会に何が必要でしょうか。教会に求道するものが少なくなり、献身者も激減していると言われています。特に若い年齢層の人びとの数は少なくなっていると思われまます。社会的な状況がそうさせている面が確かにあります。経済優先の社会で多くの人びとは仕事に追われ、精神的な余裕がなく、まずは体を休めることが優先になっています。そのような状況の中であ

りますが、教会はどのようにして人びとに福音を宣べ伝えたらよいかを真剣に考えざるを得ません。

フィリピの信徒への手紙はパウロの獄中書簡であり、キリストを宣べ伝えるがゆえに囚われの身となりつつも、「生きるにも死ぬにもわが身によつてキリストが崇められることを願って」(同1章20節)喜びに満ち、喜びなさいと勧めている、喜びの書簡であります。

獄中にあつてもイエス・キリストの福音が前進することを信じて戦っているパウロであります。フィリピの教会の人びとに伝えたいことの中心なことは2章にあります。互いに関わりあひ愛の心を持っていて、互いにこころを合わせることを求めています。2章の5節後半から「イエス・キリストの謙遜」について語っているのは、私たちがこのキリストの謙遜にならつて謙遜になるようにとのメッセージが込められているのです。教会はキリストに在つての愛が満ち溢れていなければならぬところなのです。それにもかかわらず、ともすると教会の中に、こころの通わない、冷たい風が吹いているのを感じることがあります。一人一人はキリストの愛に生かされ、罪赦されているものであるにもかかわらず、小さな事で互いを非難したり、赦せ

なかつたりすることがあるのではないでしょうか。

人びとは愛に飢え渴いています。ここから愛し受け入れてくれる人を求めているのです。教会に足を踏み入れた時、そこにキリストの愛が漂っている教会であつたならば、たとい、説教が分からなくてもホツとしてまた来たいと思うのではないのでしょうか。教会の中に対立があると、そこには冷たい空気が流れています。人びとはそれを直感的に感じます。これこそが人びとを教会から去らせてしまう最大の原因となつてしまふのです。

私たちが心がけたいことは自分が本当にイエス・キリストの愛に生きていくのかどうかという事を反省することです。ですからパウロは2章12節で「だから、わたしの愛する人たち、いつも従順であつたように、恐れおののきつつ、自分の救いの達成に努めなさい」と勧めているのです。わたしたちキリスト者の目標はキリストの愛に生きると言う事です。

フィリピ教会にはこの愛の模範となるような人物が居ました。パウロはテモテとエパフロデトという模範的な奉仕者を紹介しています。それと共に教会の中で対立している二人の女性のことも語っています。この二人の女性を排斥するのではな

く、支えてくださいと語るところにパウロらしさがあります。人は間違いを指摘されて正されるのではなく、赦しを受け入れるところに和解があると、言う事を教えられます。教会に一致を与えてくださるのは聖霊の働きです。教会が愛の共同体となるように気づいたものから祈り始めましょう。そこからリバイバルが始まるのです。

立 証

第36回 岡村アシュラムに

参加して

秋保 寛子

第36回 岡村アシュラムは2017年7月22日から23日に亘り行われました。今年、「信仰に生きる」と題し、助言者として日本基督教団 新宿西教会より杉本和生牧師が与えられ、恵みに満ち溢れたものとなりました。

「わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです。IIコリント4・18」

イエスは、主なり!

私は、昨年7月、ちょうどアシュラムの時期に教会に通うようになり、その年のクリスマスに受洗し

ました。昨年、初めてこの言葉を聞いた時、見たこともなく、見えな
い人に対して何を言っているのだろ
う。不思議だな、と違和感に近い感
覚があったことを思い出します。

受洗して初めてのアシユラムに
参加しました。でも、正直、最初は
気が進みませんでした。アシユラム
とは、「シユラム＝働き」から「ア
シユラム」から「離れ、キリストに近づく
こと。目的は真のキリスト者に造り
変えられること。」

受洗して約半年。なんともハー
ドルが高いように感じ、大きな緊張
がありました。平日は会社員、休日
は教会員。ふと気が付けば、生活の
中で様々なことを区別し、人への裁
き、高慢な自分。何をするにしても、
それは本当に心からしたいのか？人
の目を気にしているだけなのでは！
良い事をして報われたいと思ってい
るのではないか。神様の御心になら
うよう清めていただきたい。これが
私に示されたニードでした。

「祈りの細胞」で互いのニード
について述べあった時のこと。自分
のニードばかりに気を取られていた
私は、牧師、教会員の兄弟にもそれ
ぞれニードがあるのだという、当然
のことにすら驚いてしまいました。
そして「兄弟・姉妹の一人一人のた
めに毎朝お祈りしている」という或
る姉の言葉に衝撃を受けました。こ

れまで、教会全体のことや、気にな
る兄や姉については祈ってきたもの
の、一人一人について理解しようと
していたらどうか。祈ってきたらど
うか。自分のニードについての答え
を、この姉を通じて与えられたよう
に感じました。

プログラムが進むごとに、私と
いう本当に小さな細胞は姉たちの祈
りによって、更なる恵みを受け、日々
成長しているのだということ、よ
りクリアに、より強く感じました。
もっともっと祈りたい、そう思いま
した。

そして最後、杉本牧師の選曲に
より新聖歌325番「歌いつつ歩まん」
を讃美した時は、教会全体が一つに
なり、まさに「充滿の時」が与えら
れました。

主にすがるわれに 悩みはなし
十字架の御許に 荷を下ろせば
歌いつつ歩まん ハレルヤ！ハレ
ルヤ！
歌いつつ歩まん この世の旅路を

主よ、この恵みに感謝いたします。
あなたにすべてを明け渡します。
イエスは私の主である。イエス
は主なり。 アーメン。

第42回西川口教会

アシユラム報告

西川口教会 熊谷 芳江



7月8日(土) 13時30分～17時
10分、7月9日(日) 7時30分～
11時45分、(礼拝まで)。と、2日
間にわたり、西川口教会にて行わ
れました。主題は、「一人ひとりが
祈る人、愛をもって、責任をもつ
て」。助言者は西海満希子師(東
京聖書学校、神学教師)。聖書は、
フィリピの信徒への手紙でした。

参加者が一人でも多く与えられ
るように、オリエンテーション、
開心の時。静聴の時。恵みの時な
ど、一コマを四十分～六十分にし
て区切り、その内の一コマでも参
加すれば、参加者として扱います。
八日に三コマ、九日に三コマがあ
ります。

準備の打合せの時、西海先生は
浦和別所教会の体験から、参加者
全員のニード、祈りの課題を祈る
ためにも、各ファミリイを巡回す
ること、各ファミリイの写真を撮
って欲しいこと、後日、その方の
祈りをするとき、写真を見て、そ
の方を思い出すと祈りやすいとお
申し出がありました。助言者が、
私たちのニードを祈ってください
ことにふれて参加を募りました。
その結果、28名の参加で4ファミ
リイとなりました。

西海先生は、オリエンテーショ
ン、開心の時にアシユラムの関わ
りから話されました。「1997
年、東京聖書学校に赴任した。疲れ
を感じていた時、第一回埼玉アシ
ユラムの案内が届いた。発起人は、
山下萬里師と岩波久一師だった。
岩波師は、若い時、礼拝メッセー
ジをしながら信徒を見たら全員週
報を楯に居眠りをしていて。自分
は何をしているのかと思った。そ
の後、アシユラムに取り組み信徒
の変化に気づいた。アシユラムに
参加する。家庭に戻る。みことば
を聴いて生活で示すようになった
とのこと。アシユラムに参加して
よかった。」

「フィリピ1章で、パウロはキ
リストの福音が宣べ伝えられるの
であれば、自分を苦しめるために

宣教する者があるのも喜んで受け入れると告白する。2章では教会の中では、信徒はキリストの福音にふさわしい生活をし、信仰のために一致した戦いをして私を喜ばせてほしいと述べる。信仰生活を生き生きと喜びをもって行うにはどうしたらよいのでしょうか。この手紙では、『喜び』を15回(口語訳では十六回)使っています。どこに集中しているか探してください。聖書から各自が聴く必要があります。」

静聴の時、信徒は、キリストが罪を贖い死から解放して新しい命を与えてくださったのだから、毎朝福音にふさわしい生活をするため、神から命のパンを求める必要があると教えられました。信仰生活の現実、現在到達しているところと将来到達したいところのニードを目標として、今年も尺取虫のように歩めたらと思います。よみがえりのキリストにあつてキリストの苦しみと死に与かる者として、少しでも訓練されることを望みます。

第36回 岡村アシラム報告

横浜岡村教会牧師

安藤 脩

横浜岡村教会は今年度、牧師交代引継ぎの1年として過ごしております



す。私・安藤は本来ならば2017年3月で退くつもりでした。横浜岡村教会が教会造りとして取り組んでいる2つのムーブメント・アシラムとこのころの友伝道を継続してくれる後任者が定まったからです。しかし、おいでくださる後任者が牧している教会の後任が定まらないため、2018年3月を最終期限として、後任者着任時まで私が継続することとなりました。今回のアシラムは私にとって最後の岡村アシラムであります。

今回のアシラムを計画するに当たって、教育部で話し合い、後任者を良く知っていたらどう。又、後任者にも横浜岡村教会と信徒を少しでも知り、馴染んでいたらどうとい

うので、助言者としてご奉仕して頂くことになりました。日時・7月22日(土)〜23日(日) 助言者・杉本和生牧師 主題「信仰に生きる」Ⅱコリントの信徒への手紙4章 岡村アシラムの特徴は、ファミリーアワーと労作の時です。又、日曜日はジュニアチャーチ(教会学校)も子どもアシラムとして、礼拝の後、グループに分かれてJCスタッフの導きのもと、祈りの課題を出し合い、友達のために祈るということを体験します。

今年のファミリーアワーは、22日の夕食(愛餐)の後、19時から20時30分までもたれました。先述いたしました意図がありましたから、テーマを「自己紹介、これからの私・教会」といたしました。先ず助言者の杉本師が御自分の信仰、伝道者となった証し、そして結婚と子ども(里子)たちを加えた家庭のあり方などを語ってください、信仰と共にその人となりを知ることが出来ました。参加した教会員もそれぞれ自分の紹介と共に、教会との関わりを話し、杉本師に個々の一面を知ってもらい、岡村教会がどんな教会であるかのイメージが生まれたのではないかと思います。短い期間のアシラムでは労作の時を持つ必要もないのですが、岡

村アシラムでは余興と実益を兼ねて、日曜日、昼の愛餐に続き行なっています。掲載の写真の中央、今年のパロ女王、向かって左が助言者、右が戴冠式をした司式者(筆者)で、労作の後の写真です。

今年の1日目参加者は29名。福音の時参加者は36名でした。

アシラム予告

☆日本クリスチャンアシラム連盟 ●第22回全国理事会開催

とき 17年11月9日(木)午後5時〜10時(金)午後3時

ところ 池の上キリスト教会(三鷹市井口3-15-6)

内容 開会礼拝、セミナー、各地区報告懇談、理事改選等

..... 新刊「信仰の目で読み解く絵画」VI 岡山敦彦著・発売「いのちのことは社」連絡先・097・522・2768-090・9481・1947

..... 〒一八一〇〇一一 三鷹市井口3-15-6 池の上キリスト教会内 日本クリスチャン・アシラム連盟 振替口座 東京〇〇一〇〇一四五五八